

## 「施策」総括票

施策展開	1-(4)-イ	文化の担い手の育成	
施策	②創造的芸術文化の発展を担う人材の育成		47頁
対応する 主な課題	<p>○戦後の生活様式の変化や価値観の多様化が進んだこともあり、若い世代を中心に伝統文化に対する関心が低下しており、伝統文化の後継者が不足している。</p> <p>○伝統芸能の後継者となる伝承者養成は一朝一夕にできるものではなく、長年にわたる技芸の修練と研鑽が必要であり、長期的・継続的な取組が求められる。</p> <p>○子どもたちをはじめ多くの県民が、国内外の優れた文化技術を鑑賞できる機会が十分ではないため、文化創造活動の尊さや芸術の感動を体感できる環境づくりが課題である。</p> <p>○幅広い芸術を専門的に学ぶ教育機関である県立芸術大学については、アーツマネジメントなど芸術に関連した分野への就業又は起業を促すカリキュラムの設置などにより、教育機能を充実していくことが求められている。</p>		
関係部等	文化観光スポーツ部、教育庁		

### I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
<b>○文化芸術の鑑賞機会・公演機会の充実</b>				
1	文化芸術地域振興支援事業	14,950	順調	○本島及び離島地域でクラシック音楽演奏会(琉球交響楽団へ委託)を、4カ所で開催した。(1)
2	NHK交響楽団沖縄公演事業(復帰40周年記念事業)	19,648	順調	○沖縄県芸術文化祭において、展示部門(写真・書道・美術)では、公募展を実施し、本展及び移動展覧会を開催。開催中、各部会(写真・書道・美術)を中心として体験教室を行い県民が文化芸術を親しむ環境づくりを図った。23年度の来場者数4,453人と比較すると24年度来場者数は4,768人となり、増えているが、H28目標値7,900人の達成には十分な増加ではないことから、やや遅れとなった。(3)
3	沖縄県芸術文化祭事業	4,536	やや遅れ	
4	九州芸術祭事業費	1,383	順調	

様式2(施策)

5	文化振興事業費	493	やや遅れ	○文化庁や文化財団、市町村教育委員会等との共催により、ミュージカル等の鑑賞機会を県内へき地・離島の児童・生徒に提供した。平成24年度の芸術鑑賞児童生徒数は9,979人となり、平成23年度11,834人と比し、減少したことから、やや遅れとなった。(5) ○国立劇場おきなわ等と連携して若手実演家公演等を13回実施した。(7) ○舞台芸術を鑑賞する機会の少ない離島過疎地域において、舞台芸術公演の鑑賞機会の提供を行った(平成24年度実施市町村:東村、伊是名村)。(8)
6	青少年文化活動事業費	9,731	順調	
7	伝統芸能公演支援事業	17,854	順調	
8	舞台芸術による地域文化振興事業	1,912	順調	
<b>○県立芸術大学の教育機能の充実</b>				
9	県立芸大アーツマネジメント講座設置検討事業	-	順調	○県立芸大においてアーツマネジメント講座を毎月1回開催した。(9) ※アーツマネジメント:文化の作り手と受け手をつなぐ役割を担うものであり、公演や作品等の企画・制作、資金の獲得など、芸術を発展させるために必要な仕組・機能。 ○沖縄県立芸術大学における教育研究活動を推進し、創造的芸術文化の発展を担う人材を卒業生として輩出した。(10)
10	教育研究事業費(芸大)	167,727	順調	

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
1	沖縄県芸術文化祭参加者数	6,887人 (22年度)	4,768人 (24年度)	7,900人	△2,119人	-
	状況説明	沖縄県芸術文化祭は、公募展及び重要無形文化財保持者公演で構成されている。前者の来場者数は増加している一方で、後者の公演数及び来場者数が大幅に減少している。				

様式2(施策)

成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
2	沖縄県高等学校総合文化祭、中学校総合文化祭等への参加者数	11,600人／年 (23年)	11,591人／年 (24年)	12,000人／年	△9人	－
	状況説明	各文化連盟ごとに、意欲的な取組が行われているが、会場のキャパシティや予算の関係等もあり、概ね横ばいの状況となっている。				
成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
3	文化庁等提供事業芸術鑑賞児童生徒数	11,834人 (23年)	9,979人 (24年)	13,000人	△1,855人	－
	状況説明	本県は、学力向上対策が最重要課題となっている。このため、各学校とも授業時数の確保等が優先され、子どもの情操教育等、鑑賞教室などは学校のカリキュラムから外される傾向が一部で見られる。H25年度の文化庁提供事業(巡回公演・派遣事業)は、平成24年度と比較し、年度当初の実施校が8校増(総数22校)となっており、引き続き、学校現場等に対し、芸術文化に対する理解を深めてもらえる取組を行い、H28目標値の達成を図る。				
成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
4	沖縄県立芸術大学の就職内定率 (新規学卒者の求人・求職・就職の状況報告)	58% (23.3月卒)	58% (25.3月卒)	向上	0ポイント	－
	状況説明	沖縄県立芸術大学の就職内定率は、依然として県内大学の就職内定率(平均値)に追いつくことができていない状況であるが、就職支援アドバイザーの設置など、本学がこれまで取り組んできたことの効果もあり、就職内定率は横ばいとなっている。また、県全体の就職率向上に資する各種施策の効果もあり、県全体の状況も同様に改善しつつある。				

(2)参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
県内:沖縄県大学就職指導研究協議会調査 (新規学卒者の求人・求職・就職の状況報告:6大学)	58.7% (23年3月)	65.9% (24年3月)	69.4% (25年3月)	↗	－
クラシック音楽会参加人数等	－	－	2,061人 (24年度)	－	－
NHK交響楽団沖縄公演公演参加人数	－	－	1,452人 (24年度)	－	－
九州芸術祭応募者数	－	－	30人 (24年)	－	－

様式2(施策)

伝統芸能公演における平均来場者数	193人 (22年度)	199人 (23年度)	211人 (24年度)	↗	-
舞台芸術による地域文化振興事業における公演入場者数	475名 (22年)	310名 (23年)	400名 (24年)	→	-
文化庁等提供事業芸術鑑賞児童生徒数	18,875人 (22年)	11,834人 (23年)	9,979人 (24年)	↘	-

Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

○文化芸術の鑑賞機会・公演機会の充実

- ・クラシック音楽鑑賞者の更なる増加を図るには、これまで、クラシック音楽に触れたことがないような層に対して魅力を伝えるため、演奏会に足を運んでもらう工夫(料金・会場設定等)が必要である。
- ・沖縄県芸術文化祭事業においては、県民に対し、公募時期や開催時期等の周知が不足しており、作品の応募数や来場者数が伸び悩んでいる。

○県立芸術大学の教育機能の充実

- ・カリキュラムの充実を図るため、アーツマネジメントに対する学生及び社会のニーズを把握する必要がある。

Ⅳ 外部環境の分析 (Check)

○文化芸術の鑑賞機会・公演機会の充実

- ・本県は、学力向上対策が最重要課題となっているため、各学校とも授業時数の確保が優先され、子どもの情操教育等、鑑賞教室などは学校のカリキュラムから外される傾向が一部見受けられる。
- ・島嶼県であり、国内外の文化芸術を鑑賞できる機会が十分ではない。離島・へき地ではさらにその機会が限られている。

Ⅴ 施策の推進戦略案 (Action)

○文化芸術の鑑賞機会・公演機会の充実

- ・クラシック音楽に触れたことがないような層に対して魅力を伝えるため、初心者向けの演奏会や、子供連れも入場可能、演楽曲解説つきのおしゃべりコンサート等、開催形式のバリエーションを増やしていく。
- ・県民に沖縄県芸術文化祭への関心を高め、興味を持ってもらえるような広報活動をマスメディア等を活用し文化振興会と協働して展開するほか、市町村連絡協議会を通じて各市町村文化行政とも連携してポスター掲示等の広報活動を行うことにより、作品公募者及び来場者の増加を図る。
- ・芸術鑑賞機会を児童・生徒に提供する機会を増やすため、①小中学校の場合、各地区での校長研修会等に出向き、当該事業の説明を行う、②県立学校の場合、年度当初の管理職対象の行政説明で、当該事業の説明を行う、③関係教科の研究会等に出向き、当該事業の説明を行うなど、各校からの積極的な応募を働きかける。また、平成25年度においては、離島・へき地の芸術鑑賞機会提供事業費を増額し、渡名喜村と北大東村での公演を予定している。

○県立芸術大学の教育機能の充実

- ・カリキュラムの改善を図るため、県立芸術大学においてアーツマネジメント領域についての教育研究体制を検証し、文化の担い手の育成につなげる。